

後期基本計画 令和 4年度 施策方針評価書

政 策：06 次代を担う人材の育成と、持続可能な行財政経営を進める部門

基本施策：02 総合計画の推進と未来の価値の創造

施 策：03 価値の創造に向けた情報の発信と活用

施策担当職・氏名 企画政策課総括主査 木下 智恵子

1. 施策の令和 4年度までの実現状況を明らかにする

(1) 施策の内容

市民主体による「幸福感を育む地域づくり」に向けた機運の醸成には、市政の方針や政策・施策・事業及び地域の情報などが確実に市民に届く必要があります。そのためには、従来からの広報紙、ホームページなどのほかSNSを活用したリアルタイムでの情報発信や双方向での情報共有に努めます。また、市民の生活が第一の市政を展開するために、市民と市行政が顔を合わせ、互いに話し合う新たな対話の場づくりを検討します。

(2) 施策目標値の達成状況

No	この施策に関わる施策目標指標	基準値	上：戦略目標見込値／下：達成値				目標値	進捗状況
		平成30年度	令和元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 4年度	進捗率(%)
1	暮らし 普段の生活に必要な情報が伝わっていると感じている人の割合 単 位 件	49.2	50 52	55 47.2	58 43.2	60 45.6	60 45.6	D △33.3
	単 位							
	単 位							

(3) 施策を構成する事務事業及び目標値の達成状況

No	事務事業名 事務事業目標指標	推 移	令和元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
1	950 滝沢市ホームページ管理運営事業 普段の生活に必要な情報が伝わっていると感じている人の割合 単 位 %	目標値 実績	52 44.5	55 47.2	57.5 43.2	60 45.6	62.5 -	65 -
2	1816 広報発行事業 広報たきざわを読んでいる人の割合 単 位 %	目標値 実績	78.9 78.9	79.3 76.7	82 80.3	82 80.5	82 -	82 -
3	2932 視覚障がい者用広報作成事業 音声録音媒体利用者数 単 位 件	目標値 実績	0 0	0 0	0 0	0 0	0 -	0 -
4	7801 市民対話促進事業 市長と話そう（お気軽トーク）の開催数 単 位 回	目標値 実績	4 5	4 1	4 1	4 3	4 -	4 -
	単 位	目標値 実績						

後期基本計画 令和 4年度 施策方針評価書

政 策：06 次代を担う人材の育成と、持続可能な行財政経営を進める部門

基本施策：02 総合計画の推進と未来の価値の創造

施 策：03 価値の創造に向けた情報の発信と活用

施策担当職・氏名 企画政策課総括主査 木下 智恵子

2. 施策の実現に向けての令和 4年度までの取り組み状況を分析する

(1) 施策目標の達成（実現）に向けた基本計画期間内の取り組みと方針についての達成（実現）状況

B	概ね達成した
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを見た人の割合は平成30年度の数値で32.8%、令和4年度は48.8%となり、後期基本計画期間内で3人に1人の割合から2人に1人の割合へと増加しました。様々な媒体での情報伝達手段が必要なことから、平成30年度に開設したインスタグラムをはじめ、令和2年度にはユーチューブなど各SNSを使った情報伝達を実施しました。 ・市の情報を伝達する媒体として「広報たきざわ」は多くの市民に読まれており、滝沢地域社会に関するアンケート調査において、令和4年度は広報たきざわを読んでいる人の割合は80.5%となっており、後期基本計画期間内においても、有効な情報伝達媒体となっています。 ・声の箱や市ホームページ、口頭などで寄せられた意見や要望に期間内を通じて対応し、庁内での共有を行いました。 	

(2) 基本計画内の取り組みと方針のうち、令和 4年度の重点課題の達成（実現）状況

B	概ね達成した
<p>【重点課題】</p> <p>より見やすく、わかりやすい広報紙の作成に向けて、市民の意見なども取り入れながら随時アップデートを重ねるとともに、情報発信の重要なツールであるホームページの改善（アクセシビリティの改善等）に向けた取組を進めます。</p> <p>【重点課題に対応した達成状況】</p> <p>後期基本計画期間内を通じて広報会議を庁内で開催し、広報の編集方針や特集記事について意見交換をし広報紙の改善に努めました。またホームページの利用のしやすさや便利さの改善に向け、CMS更新に向けた準備を開始しました。</p>	

3. 施策の実現に向けての令和 4年度実施後での変化を認識する

(1) 施策の実現に影響する社会環境変化

B	社会環境変化あり
<p>新型コロナウイルス感染症により、各種情報の入手ニーズが高まった4年間となり、滝沢地域社会に関するアンケート調査における「広報たきざわを読んでいる人の割合」や「ここ1年でホームページを見た人の割合」は上昇しました。また、その割合は、世代間での差が少なく、広い世代で様々なツールを活用して情報を収集する傾向が見られます。情報通信及び機器の発達により、情報収集ツールが多様性を増しており、また、情報収集ツールにより情報量などに特徴があることから、それらの情報通信機器やコンテンツの特徴を生かし、更には年齢等から生じる市民ニーズなどを考慮した情報発信の方法と双方向による情報のコミュニケーション方法を議論していく必要性が増してきています。</p>	

(2) 基本施策との関連性から施策の見直し

A	必要なし
<p>基本施策達成のための積極的な情報発信は必要不可欠であり、市民とのコミュニケーションは欠かせないものです。また、総合計画の推進のみならず、積極的な情報発信と対話による情報の共有は、今後一層重要性をますます考えられます。</p>	

4. 施策の実現に向けての今後の取り組みと方向性を明らかにする

(1) 令和 6年度方針策定に際し、今後の方向性や引継課題

B	課題あり
<p>令和5年度にたきざわ魅力発信推進室が設置され、広報紙やSNS等を戦略的に駆使し、滝沢の情報を積極的に発信しながら、地域内外の人々への愛着情勢を図ることを基本の任務としています。</p> <p>第一次総合計画後期基本計画期間は、情報発信を開始した時期と重なり、「まずはやってみる」の挑戦時期であった4年間を分析し、今後は滝沢市の情報発信を戦略的に仕掛ける、戦略期としていくことが必要です。</p>	

